

## INTERVIEW ～ひとりで悩まないで～

今、認知症の方を介護されているご家族へ、  
介護経験のある方からメッセージをいただきました

支援の輪

**Aさん**

夫が認知症になってどう接していいか分からなくなり、他人に対しても気を遣うようになりました。でもケアマネジャーさんを通じて推進員の方に相談に乗っていただき、同じような悩みを持つ家族の方との新しい出会いがありました。主人への関わり方を変えたことで、今は夫婦ともに心穏やかに暮らしています。

**Bさん**

介護施設やデイサービスを上手く組み合わせて利用し、介護に没頭しすぎず、自分の時間を大切にしてください。

**Cさん**

認知症であることを隠さず、近所の人やコンビニ、スーパーの店員さんにも知ってもらうことで夫はひとりで買い物に出られました。夫が道に迷った時、周囲の協力をこれほどありがたいと感じたことはありませんでした。

**Dさん**

日々の出来事、話したこと聞いたこと全てに「OK(オッケイ)」と言うようにしています。自分も相手もお互いが認め合うことが大切だと思っているからです。周りの人の気配りや心遣いに「感謝」していることを声に出して言うように心がけています。

## 磯城野高等学校×町地域包括支援センター 「福祉交流花壇」が誕生！



8月11日に磯城野高等学校プロジェクトチーム「Flowers」の皆さんと町地域包括支援センターがコラボし福祉交流花壇を役場西側に作りました。

「Flowers」の皆さんのアイデアのもと、町はSDGsの観点から花壇には町内のモデル地区の家庭用生ごみ、給食残渣を利用した堆肥と、企業協力による麻袋を使用しています。生徒さんの育てたオレンジ色のマリーゴールドをハート型にし、ボランティアさんの協力を得て植栽しました。オレンジ色には「認知症の人を支援します」という意味が込められています。高校生の若い力を借りて、地域の未来に貢献していきます。

### <RUN 伴+を開催します！>

開催日 **11月5日(日)** スタート 午前10時～

スタート…イベント広場 ゴール…町役場東側玄関

「RUN伴(ランとも)+」とは、日本全国のまちが認知症になっても安心して暮らせる地域になることを目指して、認知症の人や家族、支援者、一般の人が少しずつつりレーをしながら、タスキをつなぎゴールを目指す認知症啓発イベントです。

皆で力を合わせて頑張ります！  
応援よろしくお願いします！



地域で みんなで  
話そう 考えよう 認知症のこと

あなたと  
一緒に幸せ

認知症は65歳以上の4人に1人が認知症とその予備軍と言われており、誰もがなり得る身近な「脳」の病気です。加齢による物忘れ(体験したことの一部を忘れるなど)とは異なり、体験したこと自体を忘れてしまうなどの症状があります。認知症について正しく受け止めることで、認知症の人もその周りの人も安心して暮らせるサポートの輪を広げませんか？

町地域包括支援センター ☎ 34-2104

### 若年性認知症とは

認知症は高齢者だけが発症するものではありません。65歳未満で発症する認知症を若年性認知症と言います。働きざかりの世代で発症するため、ご本人だけでなく、ご家族の生活への影響が大きくなりやすい特徴があり、高齢者の認知症とは異なる課題への支援が必要となります。

### 地域の皆で支えよう

認知症になったからといってある日突然、何もできなくなるわけではありません。そのため「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民が「我が事」として考え、人與人、世代や分野を超えて「丸ごと」繋がることで地域力がアップします。認知症になっても本人が自分の望む暮らしが気軽に言えるような町になるよう「聞き手」となる理解者を町全体に広げて行きましょう。

### 早期発見・早期治療が重要

認知症の早期発見、早期受診・診断、早期治療は、その後の認知症の人の生活を左右する重要なことです。ひとりで悩まず、まずは町地域包括支援センターにご相談ください。

### 認知症地域支援推進員がいます

町地域包括支援センターでは、寄せられた認知症に関する相談に対して、症状に応じて必要な医療と介護サービスについて共に考え、認知症本人とその家族に対する支援を認知症地域支援推進員(以下、推進員)が行っています。

推進員は、認知症本人の「希望を叶える」ことを大切にし、本人の声と力を生かしながら、望む暮らしを応援します。認知症があってもなくても、希望を持って日常生活を過ごせるよう、本人発信・社会参加を具体的に進めていくために存在しています。

私たちが認知症地域支援推進員です！

